

# 平成 27 年度 地域ケアプラザ事業報告書

## 1 施設名

横浜市清水ヶ丘地域ケアプラザ

## 2 事業報告

今年度、地域ケアプラザの管理運営をどのように行なったのか、事業計画書を基に具体的に記載してください。

### 地域の現状と課題について

清水ヶ丘地域ケアプラザが担当する対象地域（白金町、前里町、西中町、三春台、伏見町、庚台、清水ヶ丘、南太田1～4丁目）は、高い高齢化率に加え、高齢世帯や高齢単身世帯も多い状況です。

このような状況下で地域包括支援センター事業の相談活動においては、相談件数や訪問対応が増加傾向となっております。

また、近隣にマンション等の新規住宅が増えていくなかで、子育て関連に関するニーズも年々高まりをみせている状況で、地域活動交流事業で開催する子育て関係の事業においては、毎回多くの参加者がみられます。

このような状況下において、地域の関係者の皆さまとともに、支援を必要とする方へ確実に支援の輪を広げられるよう努めてまいりました。

### 施設の適正な管理について

#### ア 施設の維持管理について

施設の維持管理については、南区と締結した「指定管理者が扱う業務に関する基本協定書」に基づいて、施設・設備が良好な状態で利用できるよう努めてまいりました。

施設維持の保守点検等については、法令等を遵守し日々の通常管理の徹底を最重点業務として取り組んでまいりました。

とくに、当施設は、中部地域療育センターと併設されており、共有部分の管理等について業務及び費用の分担をあらかじめ定め、相互に協力しながら適切に進めてまいりました。

#### イ 効率的な運営への取組について

運営方針に則り、安心・安全、ご利用者の立場に立ったサービスを提供するとともに、サービスの質の向上と効率的な運営を目指してまいります。

具体的には、併設の中部地域療育センターと協力してゴミの分別回収の徹底、節水・節電などの省エネの徹底などに重点的に取り組んでまいりました。

## ウ 苦情受付体制について

ご利用者やそのご家族からの苦情の申し立てには、迅速かつ適切に対応する窓口としての苦情受付担当者や、苦情解決のための責任者を置いて対応してまいりました。当事者同士による解決が困難な場合は、あらかじめ定めてある第三者委員に依頼し、苦情解決に関わる助言を得ながらサービスの向上につなげてまいります。

苦情受付の周知については、施設内に掲示物を掲げるとともに、受付に意見箱を設置して、広くいつでも苦情を受けることのできる体制を整えてまいりました。

また、デイサービスなど介護保険事業については、苦情受付窓口と苦情解決責任者について重要事項説明書に記載するとともに、横浜市福祉調整委員会や神奈川県国民健康保険団体連合会についてもその所在地と電話番号を記載して、苦情受付の役割があることをご利用者にわかりやすく説明するようところがけてまいりました。

## エ 緊急時（防犯・防災・その他）の体制及び対応について

防犯対策については、とくに人手の少なくなる夜間の時間帯（１７時から２１時）に夜間施設管理者を配置し、対応してまいりました。

閉館中の夜間警備については、機械警備の方法により、専門業者に委託して実施しております。

大地震を始め、様々な場面を想定した「緊急対応マニュアル」を整備し、緊急事態が発生した場合には、このマニュアルに基づいて職員間の連携により対応してまいります。マニュアルの内容については、定期的に見直しを行い、必要な情報を加筆修正して実施してまいります。

災害発生時においては、消防署の指導により作成した防災管理計画に基づき、職員による自主消防隊を組織し、対応してまいります。

このほか、ケアプラザは、災害時における在宅要援護者のための特別避難場所に指定されており、非常災害時には臨時に避難者を受け入れることも想定しておりますので、応急災害物資の備蓄などの準備体制を整えてまいりました。

今年度は南区役所総務部総務課地域防災支援担当からの依頼により「土砂災害等による避難勧告等発令時における施設利用の協力に関する協定」を締結し、実際に９月に施設利用の協力を行いました。

## オ 事故防止への取組について

万一事故が起きた場合でも「事故から学ぶ、同種の事故は起こさない」ことを基本に、利用者の立場に立った取り組みを行ってまいります。

具体的には、施設設備の不具合等に対する早期発見・対応を目的に毎月１０日頃を目安に月１回の巡視点検を行ってまいります。

また、事故防止と個人情報保護をテーマにした所内研修の開催や朝礼等の機会を通じて、職員の気づきを促すための職場環境づくりに努めてまいりました。

このほか、業務内容や利用者等との関わりについては、職員の気づきを掘り起こすため、各職員から「ヒヤリハット報告書」や「インシデントレポート」を提出してもらい、それをもとに事故防止の対応や改善策を検討し、対応してまいりました。

## カ 個人情報保護の体制及び取組について

事故防止や個人情報保護をテーマにした所内研修を年4回開催し、職員一人ひとりの意識を高め個人情報の適正な取り扱いの徹底を図ってまいりました。併せて関連する外部研修に職員を派遣し、研修内容の伝達に努めてまいりました。

個人情報の保護については、それを扱う職員一人ひとりの自覚と責任感が重要となりますので、あわせて区役所等からの個人情報保護の取り扱いに関する具体的な事例等の情報提供があった場合には、職員会議等の場面を通じて職員の周知を図り、適切な取り扱いを喚起して緊張感の継続に努めてまいりました。

また、コンピューターウィルスによるセキュリティ対策については民間会社と契約してデータ管理を中心としたシステムを構築しており、その徹底を図ってまいりました。

## キ 情報公開への取組について

業務ごとに発行している広報紙は、常にわかりやすい紙面づくりを心がけて、取り組んでまいりました。とくに地域に向けた広報紙「隣人（となりびと）」は、定期的に1,500部を年4回にわたり発行してまいりました。この「隣人（となりびと）」とあわせて講座案内等のチラシについては、各町内会の回覧板での配布や掲示板への掲示を依頼して情報を提供してまいりました。

また、法人ホームページを整備し、その中に当施設専用のページを設け、事業の案内や運営状況などをわかりやすい形で提供できるように取り組んでまいりました。

このほか、ケアプラザの事業運営に関して、年2回の運営協議会において、委員の皆さまにケアプラザの現状と今後の課題を提示し、必要に応じて協議のうえ、進めてまいりました。

## ク 環境等への配慮及び取組について

缶やペットボトルだけではなく、牛乳パックや小さな金属類など資源化の可能なごみについては、分別回収を徹底してまいりました。

また、両面コピーの推奨や裏紙の活用、封筒の再利用等を行い、ゴミゼロ推進運動に取り組んでまいりました。

このほか、夜間時間帯のみならず日中時間帯においても、廊下も含めて館内の照明をこまめに落とすことやパソコンなどのOA機器の省電力対応などに積極的に取り組み、節電をこころがけてまいりました。

以上の取り組みについては、併設する中部地域療育センターと協力して、施設全体で取り組んでまいりました。

## 介護保険事業

### ● 介護予防支援事業

要支援1及び2の認定を受けた方への介護予防サービス計画の作成にあたり、ご利用者の心身の状況を的確に把握し、「自立支援」を目標に介護予防の効果が図られるよう努めてまいりました。

日常生活への支援については、介護保険サービス以外に行政や社会福祉協議会等が提供しているサービス及び、民間事業者・NPO・ボランティアによる配食、小規模修繕サービス等の多種多様な地域社会資源を紹介することで、ご利用者が住み慣れた地域でより安心して生活が送れるよう支援してまいりました。

#### 《職員体制》

介護予防支援については、地域包括支援センター3職種（保健師職、社会福祉士、主任ケアマネジャー）及び介護予防支援事業所職員で分担し、ケアプランを作成してまいりました。

#### 《目標》

介護予防サービス・支援計画表の作成にあたっては、ご利用者やご家族の意思を尊重し、心身の状況や生活環境等に応じて、自立した日常生活を可能な限り送ることができることを目標としております。

介護予防サービス・支援計画表を作成する上では、ご利用者の自己選択を尊重し、総合的かつ効率的にサービスが利用できるよう配慮し、適正な保健医療サービス及び福祉サービスが提供されるようサービス事業者との連絡調整を公正中立に図ってまいりました。

サービスの提供を行いながら、関係行政機関、地域の保健・医療・福祉関係者及び介護保険サービス事業所、ボランティア団体等と連携を図り、要支援状態の維持や軽減を図り要介護状態になることの予防に資するよう努めてまいりました。

#### 《実費負担（徴収する場合は項目ごとに記載）》

- なし。
- 
- 

#### 《その他（特徴的な取組、PR等）》

併設する地域ケアプラザの居宅介護支援事業や通所介護事業、地域活動交流事業、また近隣の居宅介護支援事業所など多くの委託事業者と連携を図り、ご利用者の生活を迅速にサポートできる体制を築いてまいりました。

#### 《利用者目標》

※ 単位は省略してください。

【単位：人】

4月	5月	6月	7月	8月	9月
192	190	186	188	185	178
10月	11月	12月	1月	2月	3月
176	180	177	173	171	162

● 居宅介護支援事業

ケアマネジャーは介護保険制度の要を担う役割であることを十分に自覚し、常に最新の動向に注視し、関連する法令等の改正などについて情報収集を図り、ミーティングなどの場を通じて担当職員間で定期的に情報共有を図ってまいりました。

日常生活への支援については、介護保険サービス以外に行政や社会福祉協議会等が提供しているサービス及び民間事業者・NPO・ボランティアによる配食、小規模修繕サービス等の多種多様な地域社会資源を紹介することで、ご利用者が住み慣れた地域でより安心して生活が送れるよう支援してまいりました。

《職員体制》

管理者 1名（常勤兼務）  
 介護支援専門員 2名（常勤専従2名）  
 請求事務職員 1名（非常勤兼務）

《目標》

住みなれた地域で安心した生活が送れるように、ご利用者一人ひとりの声に耳を傾け、その方にとって必要なその方らしい生活を送れるようなサービスが提供できるケアプランづくりを心がけてまいりました。

とくに、ケアマネジャーは、ご利用者に笑顔で接し、コミュニケーションを大切にしていまいりました。

また、サービス担当者会議の開催を通して、ご利用者・ご家族・ケアマネジャー・福祉サービス提供事業者が共通理解を持ち、効果的に支援を行えるように取り組んでまいりました。

《実費負担（徴収する場合は項目ごとに記載）》

- なし。
- 
- 

《その他（特徴的な取組、PR等）》

併設する地域ケアプラザの地域包括支援センターや通所介護事業、地域活動交流事業と連携を図りながら、ご利用者の生活を広くサポートできる体制を築いてまいりました。

《利用者目標》

※ 単位は省略してください。

【単位：人】

4月	5月	6月	7月	8月	9月
58	57	57.5	57.5	53	52.5
10月	11月	12月	1月	2月	3月
54	59.5	57.5	59.5	60	62

● 通所介護事業

ご利用者の生活空間として、一日を楽しく有意義に過ごしてもらうため、趣味のサークル活動等により、ケアプラザを中心とした仲間づくりができるよう工夫してまいりました。

また、ご利用者同士はもとより、地域のボランティアや近隣の小中学校・高校など様々な地域の皆さんとの交流を通じた事業により、ご利用者の一日の生活にいろどりを添えてまいりました。

デイサービスを楽しく利用していただくためには、ご利用者の安心と安全を確保することが何よりも重要となります。このため、職員の気づきを具体的に掘り起こす手段として「ヒヤリハット報告書」や「インシデントレポート」を活用し、その内容を検討する中で、事故防止の強化に努めてまいりました。

《提供するサービス内容》

- 通所介護サービス計画の作成
- 機能訓練（日常動作訓練）
- 健康状態の確認
- 給食
- 生活相談
- 介護サービス
- 送迎
- 入浴

《実費負担（徴収する項目ごとに記載）》

● 1割負担分（1回分）	
・ 要介護1	620円
・ 要介護2	731円
・ 要介護3	843円
・ 要介護4	954円
・ 要介護5	1,066円
● 食費負担	750円
● 入浴加算	54円

《事業実施日数》 週 7 日 （12月29日～1月3日まで休日）

《提供時間》 9:55～15:15

《職員体制》

- 管理者 1名（常勤兼務）
- 生活相談員 4名（常勤兼務）
- 看護職員 4名（非常勤兼務）
- 機能訓練指導員 4名（非常勤兼務）
- 介護職員 22名（常勤兼務4名、非常勤専従18名）
- 運転職員 3名（非常勤専従1名、派遣2名）

《目標》

安心・安全を第一に、より一層のサービス向上を目指して以下のことを重点に進めてまいりました。

- ①四季折々のイベント（夏祭り、大運動会、敬老会、クリスマス会、餅つきなど）のほかに、毎月のおやつレクリエーションを企画し、レクリエーションの充実に努めてまいりました。
- ②地域の保育園、小中学校、各種団体などを積極的に取り入れ、地域との交流を図ってまいりました。
- ③利用者像や状況の変化などを的確に捉え、ご家族や担当ケアマネジャーとの連携

を密にして、安心・安全なサービスの提供を心掛けてまいりました。

- ④体操強化プロジェクトと題し、これまでも行っていた体操プログラムの内容を膨らませるかたちで午前と午後の2回に分けて、体力の維持向上につながるような体操プログラムを実施してまいりました。
- ⑤ご利用者の大きな楽しみの1つである給食については、イベント形式の食事会(例えば、手打ちそばなどのイベントキャラバン)を加え、ご要望に応えてまいりました。
- ⑥職員のスキルアップを図るため、毎月第3週目に当日の出勤職員を対象にした短時間の研修「ちょこっと研修」を実施することで、すべての職員に対し研修を行い、職員の資質向上に努めてまいりました。平成27年度については、認知症を抱えるご利用者がデイサービスでの一日をおだやかに過ごしていただける環境づくりを目的に、職員一人ひとりのスキルアップを図るため、「認知症」を年間テーマとして取り組んでまいりました。

《その他(特徴的な取組、PR等)》

- ・季節を感じていただけるように、梅やレモン、夏ミカンなどの果実が実る木や草花、野菜を植え、中庭の環境の整備をしてまいりました。
- ・毎日提供する食事の献立については、複数利用する方の献立内容が重複することがないように工夫し、バランスのとれた食事を召し上がっていただけるように配慮してまいりました。また、ご利用者の日々の状態変化に気を配り、お身体の状態に合わせて食形態を一口大にするなど柔軟に対応してまいりました。このほか、高血圧症の方や糖尿病の方、腎臓病の方などにも病状や体調に配慮した減塩食やカロリー制限食などを提供してまいりました。
- ・近隣の南愛児園、清水ヶ丘保育園、めいとく保育園の児童との交流会を実施してまいりました。
- ・南区役所との共催で、動物とのふれあいを目的にボランティアグループ「ぬくぬく」の協力により、年3回の交流を実施してまいりました。
- ・車椅子の方や歩行に不安がある方でも安心して浴槽に入れるよう、リフト式の入浴装置を完備しています。
- ・南区歯科医師会(田中病院)の協力をいただき、年7回(各曜日1回)の歯科検診を実施してまいりました。
- ・新たに書道ボランティアの方を講師とした「書道クラブ」を毎月第2土曜日に開催してまいりました。

《利用者目標(延べ人数)》

※ 単位は省略してください。

【単位：人】

4月	5月	6月	7月	8月	9月
635	676	679	647	603	637
10月	11月	12月	1月	2月	3月
655	656	602	522	575	535

● 介護予防通所介護事業

ご利用者の生活空間として、一日を楽しく有意義に過ごしてもらうため、趣味のサークル活動等により、ケアプラザを中心とした仲間づくりができるよう工夫してまいりました。

また、ご利用者同士はもとより、地域のボランティアや近隣の小中学校・高校など様々な地域の皆さんとの交流を通じた事業により、ご利用者の一日の生活にいろどりを添えてまいりました。

デイサービスを楽しく利用していただくためには、ご利用者の安心と安全を確保することが何よりも重要となります。このため、職員の気づきを具体的に掘り起こす手段として「ヒヤリハット報告書」や「インシデントレポート」を活用し、その内容を検討する中で、事故防止の強化に努めてまいりました。

《提供するサービス内容》

- 介護予防通所介護サービス計画の作成
- 機能訓練（日常動作訓練）
- 健康状態の確認
- 給食
- 生活相談
- 介護サービス
- 送迎
- 入浴

《実費負担（徴収する項目ごとに記載）》

● 1割負担分	
・ 要支援 1	1, 791円
・ 要支援 2	3, 672円
● 食費負担	750円

《事業実施日数》 週 7 日（12月29日～1月3日まで休日）

《提供時間》 9：55～15：15

《職員体制》

- 管理者 1名（常勤兼務）
- 生活相談員 4名（常勤兼務）
- 看護職員 4名（非常勤兼務）
- 機能訓練指導員 4名（非常勤兼務）
- 介護職員 22名（常勤兼務4名、非常勤専従18名）
- 運転職員 3名（非常勤専従1名、派遣2名）

《目標》

安心・安全を第一に、より一層のサービス向上を目指して以下のことを重点に進めてまいりました。

- ① 四季折々のイベント（夏祭り、大運動会、敬老会、クリスマス会、餅つきなど）のほかに、毎月のおやつレクリエーションを企画し、レクリエーションの充実に努めてまいりました。
- ② 地域の保育園、小中学校、各種団体などを積極的に取り入れ、地域との交流を図ってまいりました。
- ③ 利用者像や状況の変化などを的確に捉え、ご家族や担当ケアマネジャーとの連携を密にして、安心・安全なサービスの提供を心掛けてまいりました。
- ④ 体操強化プロジェクトと題し、これまでも行っていた体操プログラムの内容を膨らませるかたちで午前と午後の2回に分けて、体力の維持向上につながるような体操プログラムを実施してまいりました。



- ⑤ご利用者の大きな楽しみの1つである給食については、イベント形式の食事会(例えば、手打ちそばなどのイベントキャラバン)を加え、ご要望に応じてまいりました。
- ⑥職員のスキルアップを図るため、毎月第3週目に当日の出勤職員を対象にした短時間の研修「ちょこっと研修」を実施することで、すべての職員に対し研修を行い、職員の資質向上に努めてまいりました。平成27年度については、認知症を抱えるご利用者がデイサービスでの一日をおだやかに過ごしいただける環境づくりを目的に、職員一人ひとりのスキルアップを図るため、「認知症」を年間テーマとして取り組んでまいりました。

《その他(特徴的な取組、PR等)》

- ・季節を感じていただけるように、梅やレモン、夏ミカンなどの果実が実る木や草花、野菜を植え、中庭の環境の整備をしてまいりました。
- ・毎日提供する食事の献立については、複数利用する方の献立内容が重複することがないように工夫し、バランスのとれた食事を召し上がっていただけるように配慮してまいりました。また、ご利用者の日々の状態変化に気を配り、お身体の状態に合わせて食形態を一口大にするなど柔軟に対応してまいりました。このほか、高血圧症の方や糖尿病の方、腎臓病の方などにも病状や体調に配慮した減塩食やカロリー制限食などを提供してまいりました。
- ・近隣の南愛児園、清水ヶ丘保育園、めいとく保育園の児童との交流会を実施してまいりました。
- ・南区役所との共催で、動物とのふれあいを目的にボランティアグループ「ぬくぬく」の協力により、年3回の交流を実施してまいりました。
- ・車椅子の方や歩行に不安がある方でも安心して浴槽に入れるよう、リフト式の入浴装置を完備しています。
- ・南区歯科医師会(田中医院)の協力をいただき、年7回(各曜日1回)の歯科検診を実施してまいりました。
- ・新たに書道ボランティアの方を講師とした「書道クラブ」を毎月第2土曜日に開催してまいりました。

《利用者目標(契約者数)》

※ 単位は省略してください。

【単位：人】

4月	5月	6月	7月	8月	9月
124	103	109	119	85	89
10月	11月	12月	1月	2月	3月
95	81	80	73	75	74

## 地域ケアプラザ

### 1 総合相談（高齢者・こども・障害分野への対応）

地域の総合相談窓口として、引き続きケアプラザの広報紙等を活用しながら地域住民への広報活動に努めてまいりました。広報紙や講座チラシ等については、町内会や近隣の病院・学校にも依頼して広く発信し周知してまいりました。

各種の自主事業参加やサークル活動、ボランティア活動での相談窓口、情報提供にも努めてまいりました。子育て支援講座では引き続き保育園や地域のボランティアと連携し、子どもの相談を受ける体制づくりを行ってまいりました。

地域での高齢者ふれあいサロンや子育てサロン、高齢者食事会、老人会、民生委員児童委員協議会定例会には、地域包括支援センター職員と地域活動交流コーディネーターが連携し積極的に参加し、実際に足を運ぶことで、顔の見える関係を築いてまいりました。このような顔の見える関係づくりを大切にしながら、地域の様々な問題の早期発見・実態把握・解決に向けて対応してまいりました。また、今年度は新しく開設された「たまり場」（友愛活動推進員が主となり立ち上がりました。現在、町内会単位の4地区で5～6ヶ所開催されております）に積極的に参加してまいりました。

このほか、専門分野の研修会に参加し職員のスキルアップに努めてまいりました。

### 2 地域活動交流部門・地域包括支援センターの連携

地域包括支援センター職員と地域活動交流コーディネーターのこれまで以上の連携体制を構築することを目的に毎月1回の4職種会議（地域包括支援センター3職種（保健師職、社会福祉士、主任ケアマネジャー）＋地域活動交流コーディネーター）を開催し、日頃の地域情報や自主事業等についての情報交換や打ち合わせを行い、連携を軸とした取り組みを進めてまいりました。4職種間での連携を強化し、情報を共有することで様々な場面において柔軟な対応ができるように努めてまいりました。

地域包括支援センター職員と地域活動交流コーディネーターが連携することで、地域で行われている各種行事等に積極的に参加・協力するとともに、各行事に参加した折には、介護予防に関するお話や健康に関するお話（ふれあいサロンにおける、看護師による熱中症対策や感染症予防についての講話）やケアプラザでの講座やサークル・ボランティア等の紹介を行い、参加者の意識啓発に努めてまいりました。

共催事業としては、引き続き介護者家族を対象として、定期的に月1回「介護者の集い みんなの会」を開催してまいりました。こちらについては、前半に体操プログラムを実施した後、地域活動交流・地域包括支援センターの担当者が加わり茶話会に繋げる流れとなっており、リピーターも増えてまいりました。参加者同士や職員とも顔の見える関係になり茶話会では話もつきることなく「安心して話せる」「体験を聞いて励みになる」「心が楽になる」などといったご意見をいただきました。今年度も関係機関に協力いただきサービス付き高齢者住宅の見学会、福祉用具の体験、ボランティア団体による演奏会を行いました。

「認知症サポーター講座」については、保健活動推進委員との共催で1回、ドンドン商店会との共催で1回開催し、地域での認知症の支援や啓発に努めてまいりました。3月には町内会と共催し開催いたしました。また、地域の認知症見守り活動「太田東部認知症サポーターオレンジリングの会」との連携を進めてまいりました。

このほか、地域向け啓発事業として「うつ講座」を開催いたしました。

また、地域の高齢者ふれあいサロンやボランティアグループのボランティア活動、各種サークル活動などのインフォーマルサービス情報の共有と連携を行い、必要な方に情報を届けられるよう努めてまいりました。

介護予防事業（きゅきゅっと体操）の参加者有志による体操サークル「さくらヶ丘」の活動についても、引き続き継続するよう周知などの支援を行ってまいりました。

### 3 職員体制・育成

委託事業である地域活動交流事業や地域包括支援センター事業については、事業目的が重なる部分も多いため、お互いの業務の垣根を越えた協働体制を整え、業務内容のより効率的な遂行に努めてまいりました。とくに緊急的な課題や重要な案件、非常事態が発生した場合には、所長を中心として全職員が協力体制を築き、一丸となって課題の解決に取り組んでまいりました。

また、職員の資質向上及び職員間のコミュニケーションを円滑に図ることを目的に外部講師によるものと所長を中心として、職員自らが講師の担い手となり職場内研修を定期的で開催してまいりました。今年度で開催した所内研修は次のとおりです。

4月には「職業倫理」をテーマに虐待事例などを通して地域ケアプラザ職員として必要な倫理観等の共有に努めました。

職員のメンタルヘルス対策の一環として、介護労働安定センターから外部講師を招き5月に「コミュニケーションの基礎」研修、8月に「メンタル・ケア」研修を開催いたしました。

6月には利用者等の緊急事態発生時の対応に備えるため、AEDの取り扱いを中心とした「救命入門」を南消防署の協力を得て開催いたしました。

7月には「リスクマネジメント」をテーマに個人情報保護や大規模災害、介護事故等に関する知識と理解を深めてまいりました。

9月には「防災・減災」をテーマに防災・減災についての知識と理解の共有を図るとともに館内図を用いた避難行動のシミュレーションをグループワークとして行いました。

10月には「感染症対策」をテーマに区役所で開催されました感染症研修の内容を伝達するとともに、実際の使用のために用意しているノロウイルス処理セットを使用する際の嘔吐物処理と区役所から機材をお借りして洗い残しを確認する手洗いの体験学習行いました。

12月には「リスクマネジメント」をテーマに施設におけるリスク管理、介護事故や個人情報漏えい事故、ヒューマンエラーや記録の大切さについて学びました。また「安全確認トレーニングキット」を用いたAKTトレーニングをグループワークとして行いました。

また、個人情報の取り扱いと保護については、とくに重要であるため、個人情報保護に関連したテーマの外部研修に積極的に参加し、その内容を報告書の回覧や所内研修の内容に盛り込み、情報の共有と意識啓発に努めてまいりました。とくに今年度は6月と10月に南区役所が主催した「個人情報漏えい事故防止研修」に職員8名を派遣し、その内容の共有に努めてまいりました。

### 4 地域福祉のネットワーク構築

ケアプラザでは、地域の福祉保健活動を行っている団体、グループ、個人等がお互いに連携を図ることにより、それぞれの活動の推進を高めるとともに、情報の共有から地域課題の解決に向けて取り組んでいく支えあいのネットワークづくりをすすめております。

ケアプラザは、このネットワークづくりが円滑に機能するようコーディネーターの役割を果たしていますが、より効果的なものにするために、次の2つの視点に立ってすすめてまいりました。

第1は、ケアプラザ運営協議会や支えあい連絡会など様々な場や機会を通じて、地域、町内会、地区社会福祉協議会、民生委員、商店会、学校、病院、ボランティア団体、区、区社会福祉協議会などとの連携を進めてまいりました。第2は、ケアプラザ内において地域活動交流コーディネーターと地域包括支援センター職員が、4職種会議等を通して情報の共有を図り、相互の業務理解に基づき連携・協働体制を構築してまいりました。

平成12年度より開催している太田・太田東部地域支えあい連絡会においては、今年度は3回開催し、2回目については南消防署より講師を招き「高齢者の出火防止対策研修会」を行いました。また、支えあい連絡会の提案により作成しました「携帯あんしんカード」や「あんしんカード（民生委員配布）」、「救急医療情報キット（南区配布）」についての情報提供と周知を行いました。

連合町内会と地区社会福祉協議会の総会や懇親会、民生委員児童委員協議会定例会にも積極的に足を運び参加してまいりました。また、地域が主催する行事（ドンドンの縁日、夏祭り、もちつきなど）、太田東部ドンドン食事会連絡会などの開催についても準備や協力を積極的に行ってまいりました。

今年度も引き続き、地域の認知症見守り活動「太田東部認知症サポーターオレンジリングの会」と連携し、定例会に参加し情報の提供、認知症やその予防についての普及啓発、認知症サポーター養成講座の開催を行ってまいりました。

このほか、清水ヶ丘保育園とかのえサロン、三春台保育園と三春台ふれあいサロンとの連携についても仲介役として協力してまいりました。

近隣の小・中学校、高校などの職業体験学習や大学生や教員、公務員等の実習などについても引き続き積極的に受け入れております。また場合に応じて学校へ出向いての職業講話にも協力をしてまいりました。

## 5 区行政との協働

事業の実施にあたっての相談・情報の収集と提供を中心に区福祉保健センター、区社会福祉協議会と連携を図り、必要に応じ共催事業として協力を要請してまいりました。

地域ケア施設連絡会（月1回実施）、支えあい連絡会（年3回）、地域包括支援センター連絡会（月1回）、南区所長会（月1回）などを活用し、小地域での情報（住民のニーズ・福祉活動）や区域での情報（他地域での福祉活動など）を積極的に把握し、共有してまいりました。

また、地域福祉保健計画についての地域福祉保健計画推進チーム、テーマ別部会への協力、研修や発表会活動に参加してまいりました。

今年度は区役所、生活支援センターと共催で「うつ講座」を開催してまいりました。

## 地域活動交流部門

### 1 福祉保健活動等に関する情報収集及び情報提供

高齢者ふれあいサロン・子育てサロンや食事会の支援や参加と民生委員児童委員協議会定例会、地区社会福祉協議会総会や地区懇談会、食事会連絡会、老人クラブなどに参加し地域における福祉保健ニーズ・課題の情報収集やインフォーマルサービスの情報提供に努めてまいりました。

広報紙「隣人（となりびと）」の定期発行と講座案内チラシは町内会の回覧板、掲示板の掲示を依頼して情報を提供しております。

また、地域主催の行事など様々な機会を利用して地域に出向いてインフォーマルサービスや講座などの案内を行ってまいりました。

広報紙や講座については、当法人のホームページは毎月更新し掲載を行ってまいりました。

活動サークルやボランティアについてはチラシ（両面）を作成し講座や行事、福祉サービス事業者などに情報提供してまいりました。

また、地域子育て支援拠点のホームページに掲載していただきより多くの方の目に触れていただく機会をつくってまいりました。

年1回のボランティア交流会ではボランティア同士の交流を通して、横の繋がりを深めていけるよう活動発表や親睦を図ってまいりました。

## 2 福祉保健活動団体等が活動する場の提供

貸し館の利用促進に向けて、自主事業への参加者や地域の行事等、広報誌で当施設の利用について積極的な利用を案内してまいりました。

講座から派生するサークルの立ち上げについて、支援や場の提供を行なってまいりました。昨年度に引き続き講座から立ち上がった3つのサークル（子育て、きゅきゅっと体操、手芸）の活動を支援いたしました。また、夜間における楽器を使用するボランティア団体による利用が定着し、利用率の向上につながりました。

直接的な声かけとあわせて広報紙やポスター掲示などを通じて、定期的なPR活動も引き続き展開しており、こちらについても利用者の声を取り入れながらよりわかりやすいものとなるよう努めております。

また、定期的に活動している団体に対しては円滑に利用できるよう日頃からの積極的なコミュニケーションに努めるとともにアンケートなどを通してご意見やご要望などを伺っております。

今年度も手芸サークル「クラフト手芸の会」と共催で地域の「ドンドン商店会縁日」に参加し、その収益金については商店会を通じ義援金寄付につながりました。

## 3 自主企画事業

活動的な高齢世代の活動のきっかけと交流の場づくりとして「音楽サロン」を年4回開催してまいりました。団塊世代に向けては男性の地域での居場所作りを兼ねて「男性体操教室」を毎月開催してまいりました。

ニーズが高まっている子育て・障がい児余暇支援など、高齢者以外の地域分野の支援事業の定期開催を目標として行っており、乳児を持つ親子を対象とした体操教室として親子ひろば「赤ちゃん体操」、未就園児を持つ親子を対象に各種講座を行う「子育て広場」、親子交流や近隣の保育園や地域ボランティアなどと連携を図り、身近な場所での居場所作りとして子育て広場「たけのこ」、父親の育児参加を目的とした「パパと体操」を開催いたしました。

毎月第1木曜日に開催の子育て広場では、7月から2月までの8回、乳幼児を対象に「ベビーマッサージとベビーヨガレッチ」を開催し、親子で初めての外出の場や友だち作りの場となりました。また今年度は小さなお子さん連れでも気軽に参加できるように「ファミリークリスマスコンサート」を開催し、9組のご家族23名が参加いたしました。

地域の方を対象にした年1回の「クリスマスコンサート」は演奏会に行く機会がない高齢者や小さいお子さんを持つ方などにも毎年の楽しみにされているなどたくさんの感想をいただき開催しております。

障がい児余暇支援事業講座として「バリアフリーテニス」を開催し、参加児童や親

とボランティアとの顔の見える関係づくりにつながりました。

参加者をボランティア活動へとつなげることを目的に、小破修繕ボランティアグループ「ちょぼら」の協力を得て、生活支援を中心とした内容の講座も定期的を開催しており、新たなボランティア活動のニーズ発掘に努めております。

今年度は太田地区・太田東部地区民生委員児童委員協議会とケアプラザが共催し、公益財団法人よこはまユースより講師派遣いただき、地域の方を対象に思春期の子どものかかわり方や地域での居場所作りの大切さを考える「子どものかかわり方」講座を開催いたしました。

また、地域の老人会や食事会、ふれあいサロンなどに参加した際は、体操や脳トレなどのレクリエーションの協力を積極的に行ってまいりました。

#### 4 ボランティアの育成及びコーディネート

生活応援団「ちょぼら」のボランティアコーディネートは27年度で57件行いました。

「ちょぼら」の定例会へ出席し活動についてやボランティア発掘が目的である講座「くらしと趣味の学習館」の企画運営についての話し合いを行いました。また配食ボランティア「なでしこの会」のボランティアコーディネートや定例会に出席してまいりました。

ボランティアの受け入れについては、ボランティアを望む方の目的やニーズを把握し、それぞれに適した活動が実践できるよう、調整を図ってまいりました。

円滑にボランティア活動が行えるよう日ごろからボランティア団体・個人に要望や意見を伺うとともにボランティア同士の交流を通して、横の繋がりを深めていけるよう支援しており、更なる親睦が図れるよう年1回、登録活動していただいているボランティアを対象としたボランティア交流会を行ってまいりました。

登録いただいているボランティアを対象に6月に「食中毒、感染症の予防」を開催いたしました。

地域の方やケアプラザで活動されているボランティアを対象にした「よこはまシニアボランティアポイント研修会」を3月に開催しボランティア活動の推進を行い、今回でケアプラザでの開催が6回目となり、ボランティアの皆さんの登録にもつながりました。

また、福祉教育受入れではボランティアについてのガイダンスや体験協力を行ってまいりました。

区社会福祉協議会ボランティアセンターとのボランティアコーディネートや区ヘルスメイトへ講座講師の依頼、エリア内の点訳ボランティアグループ「もみじ」へ広報紙点訳の依頼、傾聴ボランティアグループ「傾聴みなみ」定例会出席などの連携を行いました。

# 地域包括支援センター

## 1 総合相談・支援

### 総合相談

総合相談について、平成27年度は400件を超え新規ケースの相談が増加していると同時に、過去に相談を受けているリピーターの比率も高くなっております。

相談の内容としましては、高齢者・障害者の心身状態の重症化（認知症の進行や精神疾患等の悪化等）や家族関係の変化（高齢・複雑・希薄化等）による生活課題が多岐に渡り、支援困難ケースの対応も増えております。

ケース対応については、3職種（保健師職、社会福祉士、主任ケアマネジャー）を中心に定期的な申し送りや振り返りを行うなかで情報共有を図り、行政や民生委員、介護保険事業者と適切かつ迅速な対応ができるよう連携に努めてまいりました。

また、支援技術のスキルアップを目的とした研修会に積極的に参加するだけでなく、区内他ケアプラザや行政・区社会福祉協議会担当者と協働して、テーマ別部会毎に研修会・勉強会等の企画運営にも携わりながら、自己研鑽に努めてまいりました。

相談ケースの情報については、平成20年度12月より、パソコンにて約2300件のデータ管理を行っており、他機関より緊急に高齢者の情報提供を求められた時の対応や、相談履歴のあるリピーターの過去の相談履歴を検索できることで、効率の良い相談支援を行うことに役立てている他、地域ケア会議等において、多角的かつ俯瞰的に地域分析するための資料を作成する際、その地域の高齢化率と地域包括支援センターへの相談件数・相談内容（虐待・徘徊等）を比較することにより、地域特性を把握し、その特性を適した地域資源の検討や介護予防・権利擁護に関する講座や研修会を企画開催する際の根拠などに役立てております。

### 地域包括支援ネットワークの構築

地域包括支援ネットワークについては、これまで取り組んでまいりました「地域支え合い連絡会」（地域福祉関係者や医療・教育機関のメンバー）を開催してまいりました。第2回目につきましては在宅療養ネットワークで行われた研修について、地域活動交流コーディネーターへ情報提供を行い、検討のうえ南消防署より講師を招き「高齢者の出火防止対策」研修会を行いました。

「地域ケア施設連絡会」や「ケアマネジャー連絡会」等の事業を足がかりとして、さらに関係するボランティアやNPO団体等のインフォーマルサービスも視野に入れた多職種連携を目指して、地域包括支援ネットワークの構築に向け努めてまいりました。

地域包括支援センターが、地域の拠点となり、地域に根ざした取り組みを行っていくために、関係機関との連携強化を図るとともに、地域ニーズの把握や問題解決に向けた具体策について、実践力を高めていけるよう、専門的な勉強会や事例検討会等に積極的に参加し職員の資質向上を図ってまいりました。

## 実態把握

毎月開催している南区高齢・障害支援課地区担当ケースワーカー・保健師との「定例カンファレンス会議」において、地域課題の情報共有、個別ケース対応の進捗情報の報告、支援困難ケースに対する支援方針の検討、自主事業企画内容に関する検討を行っておりますが、日常的にもケース対応の相談や状況把握、支援方針の決定、支援の役割分担など常に情報共有を図りながら、場合によっては同行訪問にて対応するなど、連携強化に努めてまいりました。

3職種（保健師職、社会福祉士、主任ケアマネジャー）と地域活動交流コーディネーターが協働して、食事会（年18回以上、4ヶ所）、ふれあいサロン（3ヶ所：月3回開催1ヶ所、月1回開催2ヶ所）、老人クラブへ定期的に参加し、3職種各々の専門領域をテーマとしたミニ出前講座（健康講座、介護予防、健康作り、オレオレ詐欺防止ステッカー・救急医療情報キットの配布、介護保険制度の説明など）を開催するとともに「地域住民の身近な相談窓口」としてのケアプラザ事業についてのPRを行ってまいりました。

民生委員児童委員協議会定例会（月1回・2地区）に参加し、「顔の見える関係づくり」を心がけながら、地域の様々な情報の共有と把握に努めるとともに、ケアプラザが主催する各種事業（講演会・勉強会・研修等）の情報発信と参加の呼びかけを行ってまいりました。また、民生委員児童委員とは、地域の生活困窮者の相談を受け、同行訪問をすることで、介護保険申請代行手続きを実施し、連携構築を行っています。このほか、安否確認が必要なケースの緊急時対応について連携・協力をいただくことなど、日常的に協働関係を図っていくなかで、高齢者の見守り推進に取り組んでまいりました。

ひとり暮らし高齢者については『地域で見守り推進事業』を効果的に行うため、民生委員や友愛・保健活動推進員との連絡会に参加し、対象者に対する情報共有等の積極的なアプローチを行いながら、必要があれば介護保険制度の利用に繋げてまいりました。また、個別レベルの地域ケア会議にも、民生委員や友愛活動推進員に参加していただき、今後の支援について話し合いを行いました。

## 2 権利擁護

### 権利擁護

今年度も継続して、南区成年後見サポートネットでは、法律専門職団体や知的障害支援施設及び精神障害者後見的支援機関の方々との多問題支援困難事例の検討を行いました。また例年通り支援技術スキルアップを目的とした研修会を企画しており、今年度は「任意後見制度について」公証役場より講師を招き、知識の向上に努めることができました。

昨年度より立ちあげられた「南区相談連絡会」では、障害関係事業所・子育て支援関係・児童相談所等機関と行政、地域包括支援センターと顔に見える関係づくりを目的とした連絡会を3回開催し、各機関の紹介と伴に支援困難事例検討の積み重ねを行いました。

また、ケアプラザ自主事業として、平成22年度より継続的に開催している「成年後見勉強会」（人生ゆうゆう講座）を3回開催しました。講演内容は、地域住民や老人会の方々を対象に「終活」をテーマとし、「エンディングノート」の利用方法についての講演を開催しました。さらにケアマネジャー・民生委員等の支援者を対象にし、法定後見・任意後見制度の説明、後見人の職務と権限、の講義と伴に、実際に制度を活用した事例を報告することによる支援技術スキルアップを図る講演を行い、述べ57名の方に参加いただき制度の有効的な活用に関して普及啓発することに努めました。



今年度、成年後見に関する相談は19件（昨年度より+10件）あり、後見人申し立て及び選任までの支援に関わったケースは6件（含、区長申し立て1件）ありました。将来的にも後見制度の利用が必要なケースは増加していく傾向がみられ、認知症専門医への診断書作成依頼や後見人受託専門機関及び、行政・ケアマネジャーとの連携調整等の業務が多くなっています。

## 高齢者虐待

南区虐待分科会の担当として、勉強会・研修会・出前講座等を計7回企画開催しました。

ケアプラザ3職種（保健師職、社会福祉士、主任ケアマネジャー）の虐待ケース支援技能向上及び新任地域包括支援センター職員のレベルアップを目的とした「虐待予防勉強会」（2回）では、「休日の虐待緊急対応方法について」をテーマとしました。また、大学の講師による「虐待ケースにおける介護者支援」研修会、昨年度より取り組んでいる新任ケアマネジャーを対象とした「虐待ケースの気づきと早期相談、連携について」の講座等、企画運営及び講師役を担いました。

また、昨年度より虐待部会にて事業目標としていた「虐待を地域で防止するための普及啓発講演会」を各ケアプラザエリアにて開催、今年度は3回（3回目は2月23日開催予定）、行いました。

今年度、区と地域包括支援センターの定例カンファレンスで検討し、対応した虐待ケースは16件ありました。とくに世帯分離の対応を行ったケースについては、残された家族に対して、民生委員等地域住民へ見守りや声かけなどの安否確認を継続的に実施していただき、家族の孤立化を防ぐよう地域住民との関係再構築による虐待予防を視野に入れた家族支援を行ってまいりました。

## 認知症

- ・認知症部会の担当として、南区と区内8地域包括支援センター協働による「認知症映画会」を開催しました。
- ・「認知症になっても安心して暮らせるやさしい街づくり」をテーマとして、認知症サポーター養成講座を太田地区では保健活動推進員を対象に、太田東部地区ではドン・ドンドン商店会役員と周辺地域住民を対象に開催いたしました。3月には久保山南町内会を対象に開催しました。  
また、睦地域ケアプラザ・浦舟地域ケアプラザと共催し、職業訓練の一環として、共進中学1年生を対象に、認知症についての講座を開催いたしました。これを機に、3月には3年生170名を対象に、認知症サポーター養成講座を開催しました。
- ・“認知症になっても暮らしやすい、支え合う街づくり”を目標とし、認知症の勉強会や地域の見守りを行う『太田東部認知症サポーターオレンジリングの会』の定例会への参加及び支援を地域活動交流コーディネーターと協働で行いました。
- ・徘徊認知症高齢者あんしんネットワークの登録者は延べ32名となり、今年度の新登録者は7名でした。また、ネットワーク登録後も担当者会議等へ参加し、随時ご利用者やご家族の状況把握を行うよう努めてまいりました。
- ・今年度、清水ヶ丘担当エリア在住のキャラバンメイト養成講座受講者は3名でした。太田東部地区のキャラバンメイトの連絡会を支援し、今後の講座や活動の方向性の検討を行いました。

### 3 介護予防マネジメント

#### 二次予防対象者把握

ふれあいサロンや食事会に参加し健康情報の提供、介護予防教室や「お元気で21健診」の案内を行うとともに、二次予防対象者の把握に努めてまいりました。

「お元気で21健診」はエリア外2ヶ所に協力し、エリア内4ヶ所で実施してまいりました。エリア内においては、介護予防サポーターと協働し、介護予防教室参加者の対象と、把握に努めてまいりました。

#### 介護予防ケアマネジメント力

個々のニーズに適した介護予防サービス計画を作成し、対象者の状態の維持や改善を目指し、住み慣れた地域でいつまでも安心して自立して暮らしていただけるような目標の設定とその達成が図れるよう、ケアマネジメントを提供してまいりました。

また、居宅介護支援事業所へ委託として依頼しているケースについても可能な限り担当者会議に出席するとともに、電話連絡等で日常的な情報共有を図りケアマネジメントの把握に努めてまいりました。

対象者のニーズを把握し、介護保険以外のサービスやインフォーマルサービス（体操教室や各種サロン、食事会等）への参加を促し、意欲の向上や閉じこもり予防などの効果を引き出せるような関わりができるように情報提供を行いました。

### 4 包括的・継続的ケアマネジメント支援

#### 地域住民、関係機関等との連携推進支援

太田地区・太田東部地区の民生委員児童委員協議会の定例会に地域包括支援センター職員が交代で出席し、支援が必要な高齢者についての情報共有を行い、連携支援を図ってまいりました。

定例会において、介護保険サービスに関する情報提供として、「福祉用具」についての説明を行いました。

昨年度に引き続き民生委員児童委員と清水ヶ丘エリアのケアマネジャーとの顔の見える関係づくりとして佐藤病院の協力のもと研修会を開催しました。

ふれあいサロンや地域の食事会（ちとせ会・三春会・夢見会・ドンドン会）には、3職種（保健師職、社会福祉士、主任ケアマネジャー）と地域活動交流コーディネーターが連携のうえ出席し、介護保険制度の説明や介護予防・健康関連の講演会等の情報提供を行ってまいりました。

広報紙「隣人」を活用し、職員紹介や健康に関するコラムなどを通じて地域包括支援センターが「高齢者の相談・支援の窓口」であることを地域住民へ周知してまいりました。

老人会や食事会などに参加し、救急医療情報キットの説明と配布を行いました。

毎年恒例になっている連合町内会主催の「健民祭」について、民生委員と協働し「脳トレ」を行う予定で準備をしてまいりましたが、雨天のため中止となりました。

担当エリア内にあるグループホーム運営委員推進委員会より定期的に運営状況について報告を受け情報の共有してまいりました。

## 医療・介護の連携推進支援

区役所対策事業と区内の地域包括支援センターで「うつと家族支援～支援者だからできること」をケアマネジャー向けの研修として開催しました。

また、区内介護支援専門員連絡会「あったかネット南」・区役所・地域包括支援センターによる「ケアマネジャーが行うケアマネジメントとは」の研修会を開催しました。

昨年度に引き続き訪問介護事業所連絡会に南区内8地域包括支援センターで参加し地域包括支援センターとの連携やインフォーマルサービスについての情報提供を行いました。

南区内の在宅療養に係る関係機関、多職種間の顔の見える関係づくりとして、昨年度発足した「南区在宅療養支援ネットワーク」会に医療と介護の連携体制構築に向けて参加してまいりました。ネットワーク会を重ねることで、医療と介護の職能団体それぞれが、お互いの専門性について共有することができました。多職種連携を要とするケアマネジャーの専門性についても、参加者間で共有することができました。南区医師会在宅医療拠点事業の事例検討会では、グループワークに参加し医療・介護の連携構築に向けて協力してまいりました。

定期巡回・随時対応型訪問介護看護の指定業者による地域で開催された介護・医療連携推進会議に出席し介護・医療に関する課題について情報の共有を図ってまいりました。

## ケアマネジャー支援

「ケアマネジャー連絡会」を年2回開催し、エリア内のケアマネジャーとの顔合わせと関係づくりを行ってまいりました。

1回目は配食サービスの事業所の協力のもと事業所の説明とお弁当の試食を行いました。

2回目につきましては昨年度に引き続き、エリア内の民生委員とケアマネジャーとの顔の見える関係づくりとして佐藤病院についての事業説明と民生委員さんの日頃の活動状況について情報の共有を実施してまいりました。

ケアマネジャーからのケースの相談については、3職種（保健師職、社会福祉士、主任ケアマネジャー）が専門性を生かしながら、後方支援してまいりました。また、必要があれば南区高齢・障害支援課、生活支援課等とも連携し対応してまいりました。

必要に応じケアマネジャーとの同行訪問や区高齢・障害支援課担当職員とケースカンファレンスを行い、支援の方向性や役割分担を検討し、ケアマネジャーへの支援を図ってまいりました。

新任ケアマネジャー実習の受け入れについては、地域包括支援センター3職種がそれぞれに専門性に応じた事業についての説明を行いました。また、インフォーマルサービスについても地域活動交流コーディネーターへ説明を依頼し、実施いたしました。後期では南区虐待分科会と合同で高齢者虐待防止法について勉強会を開催いたしました。

区、8地域包括支援センター合同の勉強会としましては恒例となっていますインシデント手法を用いた学習会、うつと家族支援、ケアマネジャーが行うケアマネジメントとは野研修会を開催いたしました。

定期的に地域包括支援センターエリア内の居宅介護支援事業所訪問し、地域包括支援センターの役割や適宜必要な情報提供に努めてまいりました。

## 多職種協働による地域包括支援ネットワーク

これまでケアプラザが取り組んでまいりました「地域支え合い連絡会」において、『誰もが安心できるまちづくり』を目指し年3回開催してまいりました。

第2回目につきましては在宅療養ネットワークで行われた研修について、地域活動交流コーディネーターへ情報提供を行い、検討のうえ南消防署より講師を招き「高齢者の出火防止対策」研修会を行いました。

区福祉保健センターとの連携を主軸とした「地域ケア施設連絡会」、また「ケアマネジャー連絡会」等の事業を足がかりとして、さらに関係するボランティアやNPO団体等のインフォーマルサービスも視野に入れた多職種連携を目指して、地域包括支援ネットワークの構築に向け努めてまいりました。

昨年度より地域ケア会議を試行実施してまいりましたが、今年度におきましても区と連携を図りながら個別ケースの地域ケア会議を2回、地域包括支援センターレベルの地域ケア会議を1回開催してまいりました。

今年度については昨年度のセルフネグレクトから「緩やかな見守り」をテーマとし、1回目については介護保険のサービスに繋がらないケースについて民生委員、地域のボランティア団体、訪問看護事業所に参加していただき開催しました。2回目については退院時にサービスに繋がっていたが本人の希望で終了になったケースについて病院関係者、サービス事業所、民生委員に参加していただき開催しました。また、参加者の共通認識を図るため、会議の中で高次脳機能障害についての説明も取り入れました。

地域包括支援センターレベルでは個別会議をもとに南太田地区を対象に開催しました。南太田4丁目の町内会の方と南区社会福祉協議会の方にも参加していただき地域の現状と課題について情報共有をすることができました。

## 介護予防事業

### 介護予防事業

- ・太田地区では、太田地区連合町内会館において、元気づくりステーション事業の直営期として、介護予防教室を引き続き開催いたしました。参加者の平均は13.5名あり、今年度は年22回開催してまいりました。また、南太田4丁目町内会館においては介護予防教室を5回開催いたしました。計59名、平均11.8名の参加がありました。次年度は元気づくりステーション事業として開催する予定です。
- ・太田東部地区では西中前里1・2白金1町内会館において、昨年に引き続き介護予防教室を開催してまいりました。参加者の平均は7.9名あり、今年度は12回開催してまいります。また、清水ヶ丘第二町内会館においては、お元気で21健診を発端とし、玄米ダンベル体操教室を2回開催いたしました。59名の参加がありました。2月からは定期的に開催し、次年度には元気づくりステーション事業へ移行する予定です。
- ・それぞれの介護予防教室で、玄米ダンベル体操と脳トレ、フットケアを組み合わせた体操の他に、ロコモ予防を目的として栄養士による栄養改善、作業療法士或いは理学療法士による口腔機能維持についての講座も開催いたしました。
  - ・「お元気で21検診」の地域包括支援センター版として、区と介護予防サポーターと協働し、エリア内の介護予防教室4ヶ所で健診を実施してまいりました。参加者が自ら運動機能の確認をするとともに、介護予防に必要な知識の習得が図れるように、介護予防サポーターによる栄養や、口腔体操についての講話も開催いたしました。

- ・ふれあいサロンや高齢者食事会（ちとせ会、三春会、夢見会、ドンドン会）では介護予防の観点から、健康づくりに関する講話を通して、介護予防への意識づけに取り組んでまいりました。

# 平成27年度 地域ケアプラザ収支報告書

施設名:横浜市清水ヶ丘地域ケアプラザ

平成27年4月1日～平成28年3月31日  
(単位:千円)

	科目	地域活動交流	地域包括支援センター			居宅介護支援	通所介護	予防通所介護
			包括的支援	介護予防事業	介護予防支援			
収入	指定管理料等収入	17,182	22,206	149				
	介護保険収入				3,961	8,482	73,923	
	その他	10,905	455			199	38	
	認定調査料					199		
	修繕追加分等	10,905	455					
	雑収入(職員給食費等)						38	
	<b>収入合計(A)</b>	<b>28,087</b>	<b>22,661</b>	<b>149</b>	<b>3,961</b>	<b>8,681</b>	<b>73,961</b>	<b>0</b>
支出	人件費	12,282	22,175			16,555	60,839	
	事務費	3,104	2,006			666	15,164	
	事業費	633	80	151			8,163	
	管理費	4,654	1,229			0	9,220	
	その他	10,873	455				2,750	
	施設使用料相当額						2,750	
	修繕追加分等	10,873	455				0	
<b>支出合計(B)</b>	<b>31,546</b>	<b>25,945</b>	<b>151</b>	<b>0</b>	<b>17,221</b>	<b>96,136</b>		
<b>収支 (A) - (B)</b>	<b>-3,459</b>	<b>-3,284</b>	<b>-2</b>	<b>3,961</b>	<b>-8,540</b>	<b>-22,175</b>	<b>0</b>	

※ 介護予防プランを他事業者へ委託する場合の取扱は、介護報酬を一旦全額収入に計上した後、他事業者へ委託料として支払う分を支出に計上してください。

※ 上記以外の事業(認知症対応型通所介護等他の事業)を実施している場合は、事業ごとに列を増やして同じように記載をしてください。

# 平成27年度 自主事業報告書

## 横浜市清水ヶ丘地域ケアプラザ

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
地域支えあい連絡会	誰もが安心できるまちづくりをめざして年3回開催します。	年3回 6月, 11月, 3月

事業名	目的・内容	実施時期・回数
ちょこっとボランティア生活応援団 ちょぼら (高齢者支援)	ボランティアグループ生活応援団「ちょぼら」が地域の高齢者などを対象に生活支援を行っているもので、ケアプラザでは、地域の皆さんからの依頼を受けるなどの相談・連絡・調整を担当しています。電球の交換から庭木の剪定、草むしり、障子の張替えなどを実施します。	随時 年間57件

事業名	目的・内容	実施時期・回数
ふれあいサロン (高齢者支援)	各町内会婦人部などが担い手となって実施しています。地域の高齢者の外出と仲間づくりの支援が主な目的となっていますが、赤ちゃんからお年寄りまでの異世代交流を目指しています。各町内会館を会場とし簡単な体操、会食、手芸、歌などのレクリエーションや外出レクリエーション、外食などを行います。	南太田ふれあいサロン (年12回) 三春台ふれあいサロン (年15回) 前里町ふれあいサロン (年36回)

事業名	目的・内容	実施時期・回数
なでしこの会 食事会 (高齢者支援)	配食ボランティアグループ「なでしこの会」と共催で実施しています。食中毒予防のため、配食サービス中止の夏期間に利用者をケアプラザに招いて行っているもので、会食と他ボランティアグループによる歌・演奏などを楽しんでもいただきます。	年1回 7月

事業名	目的・内容	実施時期・回数
子育て広場 (子育て支援)	未就園児とその保護者を対象とした講座です。毎月様々な内容で行います。 子育て全般の支援を目的としているほか、子育て中の保護者同士やボランティアと親子の交流の場を目指します。	年12回 4月作って遊ぼう 5月リズム遊び 6月リズム遊び 7月～2月 (8回) ベビーマッサージとベビヨーガレッチ 3月親子料理

事業名	目的・内容	実施時期・回数
子育て広場「たけのこ」 (子育て支援)	子育て中の親子を対象に、毎月第4金曜日に多目的ホールを開放して自由に過ごしてもらいます。 子育て全般の支援を目的としているほか、子育て中の母親同士やボランティアと母親の交流の場を目指します。	年12回 毎月第4金曜日

# 平成27年度 自主事業報告書

事業名	目的・内容	実施時期・回数
親子ひろば 「赤ちゃん体操」 (子育て支援)	赤ちゃんとお母さんを対象とした体操教室です。親子で3B体操の指導者と一緒に音楽に合わせて体を動かします。参加者同士の交流の場を目指します。	年12回 毎月第2月曜日

事業名	目的・内容	実施時期・回数
親子ひろば 「パパと体操」 (子育て支援)	父親と子どもを対象とした体操教室です。身近なケアプラザを利用し地域での居場所作りとともに、父親の育児参加や家庭と異なる環境・人との接点作りと参加者同士の交流の場を目指します。	年12回 毎月第2日曜日

事業名	目的・内容	実施時期・回数
ファミリークリスマス コンサート (子育て支援)	地域のファミリー対象とした演奏会です。身近なケアプラザを利用し、活動の場を広げるために音楽を媒体として楽しい時間を過ごし、参加者同士の交流を図ります。	年1回 冬休み

事業名	目的・内容	実施時期・回数
バリアフリー テニス (障がい児余暇 支援)	障がいのある小学生・中学生を対象にした余暇支援講座です。テニスを媒体として親子や友だちと楽しい時間を過ごします。障がい児を抱える家族の負担を軽減するとともに、子どもたちに余暇活動の機会を提供し、活動の場を地域に広げることを目指します。	年3回 夏休み、冬休み、 春休み

事業名	目的・内容	実施時期・回数
くらしと趣味の 学習館	主に「生活応援団ちよぼら」のメンバーなどを講師に迎え、住まいの小修繕や趣味の講座を実施します。住まいの小修繕等の講座を通じて仲間作りや地域参加を推進しボランティア活動に興味を持ってもらうことを目的とします。	年8回 4月網戸の貼り方 5月障子の貼り方 6月庭木の剪定方法 7月夏休み木工教室 9月水まわりの補修 11月刃物の砥ぎ方 1、2月マジック

事業名	目的・内容	実施時期・回数
音楽サロン	歌うことによる健康づくりと外出機会のひとつとなり、みんなで集まることによる仲間づくりと交流を促進することを目的とします。	年4回 6月, 9月, 12月, 3月

事業名	目的・内容	実施時期・回数
男性体操教室	男性のための筋力アップと介護予防のための体操を行うとともに参加者同士の交流や外出の機会を作ります。	年12回 毎月第2日曜日



# 平成27年度 自主事業報告書

事業名	目的・内容	実施時期・回数
ボランティア研修	ケアプラザを中心に活動しているボランティアを対象とした講座です。ボランティアのスキルアップを目的とします。	年1回 6月

事業名	目的・内容	実施時期・回数
ボランティア講座	地域の方を対象にボランティア活動の啓発を行います。	年1回 3月

事業名	目的・内容	実施時期・回数
ドンドン商店会 縁日出店	地元商店会の縁日に参加し、ケアプラザのPRを兼ねて地域住民との交流を図っています。ボランティアの協力により、ゲームコーナーやミニバザーなどを企画します。	年1回 8月

事業名	目的・内容	実施時期・回数
クリスマス コンサート	住民との交流、施設のPRを目的に行うコンサートであり、地域に住むプロのマリンバ奏者らを招待して楽しいひと時を過ごします。毎年恒例となっており、普段あまり聴けない生の音楽を楽しむことができます。	年1回 12月

事業名	目的・内容	実施時期・回数
ボランティア 交流会	ケアプラザを中心に活動しているボランティアを対象に実施します。日頃の活動に対する感謝とともに、ボランティア同士の交流と親睦を図ります。各団体の紹介を中心に、歌、楽器演奏なども披露していただいています。	年1回 2月

事業名	目的・内容	実施時期・回数
南区健康福祉まつり 「南なんデー」 参加	ケアプラザのPRと住民との交流を目的に南区ケア施設連絡会として参加しています。パネル展示で施設の紹介を行うとともに、区役所と協力し異世代交流を目的にゲームなどで子供たちとふれあいます。	年1回 10月

事業名	目的・内容	実施時期・回数
蒔田中学校 体験学習受入 (福祉教育)	総合的学習「職業体験」として、デイサービス実習を通して、高齢者との交流を図ることにより、仕事の内容や特色などを学びます。	年1回 11月

事業名	目的・内容	実施時期・回数
岩井原中学校 体験学習受入 (福祉教育)	職業体験学習として、デイサービス実習を通して高齢者との交流を図ることにより、仕事の内容や特色などを学びます。	年1回 2月

# 平成27年度 自主事業報告書

事業名	目的・内容	実施時期・回数
清陵総合学校 施設訪問・交流 体験受入 (福祉教育)	「産業社会と人間」授業の一環として、将来の進路や職業を考える手助けになるよう、交流体験の受け入れを行います。福祉施設の役割やケアプラザの仕事内容などを学びます。	年2回

事業名	目的・内容	実施時期・回数
清陵総合学校 社会人講話 (福祉教育)	「産業社会と人間」授業の一環として、働くことの誇りや意義を知ることによって勤労観・職業観を養い、社会に積極的に参加する態度を持つ人間の育成を目指すことの手助けになるように福祉施設の役割やケアプラザの仕事内容・心構えなどを話します。	年1回

事業名	目的・内容	実施時期・回数
子どものかかわり 方 ※太田地区・太田東 部地区民生委員児童 委員、ケアプラザで 共催	地域の民生委員児童委員との共催で子育て中の方や民生委員児童委員の方を対象に、学齢期の児童とのかかわり方について専門家を講師に招き開催します。	年1回

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
介護者の集い 「みんなの会」 ※地域活動交流と地 域包括支援センター で共催	介護者を抱える家族を対象に外出や気分転換の機会を提供し、活動の場を地域に広げてもらうとともに、介護や介護者に対する理解を深めてもらうことを目的に開催いたしました。	年12回 毎月第3金曜日

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
成年後見勉強会	①「老後、安心した生活を送るために／古い支度・もしもノートの書き方講座」講演会を開催しました。 ②「成年後見制度について／市民後見人について」講演会を開催しました。	平成27年度 (計3回)

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
認知症 サポーター 養成講座	「認知症を学び、地域で支える」をテーマとして、太田地区と太田東部地区各々の地域にて、キャラバンメイトによる講座の開催の支援をいたしました。	平成27年度 (計2回)

# 平成27年度 自主事業報告書

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
ケアマネジャー 連絡会	地域のケアマネジャーを対象として、介護保険や福祉関係の制度や行政サービス等の情報提供、地域福祉関係者（民生委員等）との交流も含めた「連絡会」として定期的に開催し、顔の見える関係づくりを行いました。	平成27年度 (計3回)

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
介護予防普及 強化事業 「いきいきダンベル 体操教室」	太田東部地区において、参加者が自主的・継続的に介護予防に取り組めるように、ダンベル体操を軸に介護予防の必要性、ロコモ予防、口腔ケア・栄養改善・認知症予防に関するものを取り入れた介護予防教室を企画・開催しました。	平成27年度 (計12回)

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
元気づくり ステーション事業 「ハッピー♡ ストレッチ」	地域における介護予防グループ活動を広めることにより、高齢者が地域の中で人とつながりながら、健康で生きがいのある活動的な生活を送ることが出来るようになることを目的とし、区と共催し、65歳以上の高齢者及びその支援のための活動に関わる方を対象に、月2回、介護予防を目的としたダンベル体操教室を開催しました。	平成27年度 (計22回)

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
介護予防普及 強化事業 「すこやか ダンベル体操教室」	太田地区において、参加者が自主的・継続的に介護予防に取り組めるように、ダンベル体操を軸に介護予防の必要性、ロコモ予防、口腔ケア・栄養改善・認知症予防に関するものを取り入れた介護予防教室を企画・開催しました。	平成27年度 (計5回)

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
介護予防普及 強化事業 「清水丘第二玄米 ダンベル体操教室」	太田尾東部地区において、参加者が自主的・継続的に介護予防に取り組めるように、ダンベル体操を軸に介護予防の必要性、ロコモ予防、口腔ケア・栄養改善・認知症予防に関するものを取り入れた介護予防教室を清水丘第二町内会とともに企画・開催しました。	平成27年度 (計6回)

平成27年度 自主事業収支報告書

事業名	①募集対象	自主事業予算額					
	②募集人数	総経費	収入		支出		
	③一人当たり参加費		指定管理料	参加費	講師謝金	材料費	その他
子育て広場	未就園児親子	69,180	39,780	29,400	64,592	4,588	0
	各15組 無料～500円						
子育て広場「たけのこ」	乳幼児親子	0	0	0	0	0	0
	参加自由 無料						
親子ひろば「赤ちゃん体操」	乳幼児親子	106,908	84,108	22,800	106,908	0	0
	各15組 1組300円						
親子ひろば「パパと体操」	乳幼児親子	61,572	54,972	6,600	61,572	0	0
	各15組 1組300円						
ファミリークリスマスコンサート	乳幼児親子	10,023	10,023	0	10,023	0	0
	各15組 1組300円						
障がい児余暇支援事業 バリアフリーテニス	障がい児	33,181	28,981	4,200	30,000	3,181	0
	各10名程度 300円						
くらしと趣味の学習館	地域	47,882	35,082	12,800	23,387	24,495	0
	各15名程度 無料～500円						
音楽サロン	地域	53,456	37,556	15,900	53,456	0	0
	各40名程度 100円						
男性体操教室	地域男性	106,908	85,408	21,500	106,908	0	0
	各10名程度 500円						
ボランティア研修 食中毒の原因とその予防	地域	0	0	0	0	0	0
	各30名程度 無料						
ボランティア講座 よこはまシニアボランティア ポイント登録研修会	地域	0	0	0	0	0	0
	各15名程度 無料						
ドンドン商店会縁日出店	地域	31,237	13,787	17,450	0	31,237	0
	200名 内容により						
クリスマスコンサート	地域	83,972	83,972	0	66,822	17,150	0
	60名 無料						
ボランティア交流会	ボランティア	155,124	155,124	0	0	155,124	0
	60名 無料						
民生委員共催 子どもとのかかわり方	地域	0	0	0	0	0	0
	各15名程度 無料						
介護者の集い	介護者	46,658	46,658	0	41,172	5,486	0
	各10名程度 無料						
成年後見勉強会	地域	31,088	31,088	0	31,088	0	0
	60名 無料						
認知症サポーター養成講座	地域	0	0	0	0	0	0
	各20名程度 無料						
ケアマネジャー連絡会	ケアマネ	1,814	1,814	0	0	1,814	0
	各30名程度 無料						
いきいきダンベル体操教室	地域	99,512	99,512	0	66,816	0	32,696
	各15名程度 無料						
ハッピー♡ストレッチ	地域	0	0	0	0	0	0
	各20名程度 無料						
すこやか ダンベル体操教室	地域	51,345	51,345	0	27,840	0	23,505
	各20名程度 無料						
清水丘第二 玄米ダンベル体操教室	地域	840	840	0	0	0	840
	各20名程度 無料						

事業ごとに別紙に記載してください。